

上中里・氷取沢地区 小規模校再編検討委員会ニュース

平成17年 7月27日 第2回検討委員会開催

今回は、上中里小と氷取沢小の児童数・学級数の今後の見込みのデータに基づき、再編統合について協議しました。

また、再編統合の対象校を「上中里小・氷取沢小」の組み合わせとすることを検討委員会として確認しました。

今後、両校の再編統合に向けて、PTAや地元自治会・町内会等の意見を踏まえ、検討を進めていきます。



平成17年 7月27日 氷取沢小において

上中里小・氷取沢小等の児童生徒数・学級数の見込みをもとに議論

上中里小・氷取沢小の児童数・学級数の今後の見込み

17年推計(速報値)により23年までの児童数・学級数の見込みを事務局が説明した上で議論しました。この推計によると、上中里小は今後微減で推移し、22年には9学級になる見込みです。(☞表1参照)

また、氷取沢小は減少が大きく、23年には現在(166人)の半減に近く、91人にまで減少する見込みです。特に、氷取沢小区域内の今年の2歳児が6人で、今後、就学までの転出、私学への就学等の増減を加味すると、21年の1年生(今年の2歳児)は5人になる見込みです。(☞表2参照)

上中里小と氷取沢小が統合した場合の想定値をみると、23年まで適正規模(12学級)で推移する見込みです。(☞表3参照)

推計方法の基本的な考え方

- 0～5歳の幼児及び小学校在学者の数を年齢・学年ごとに把握した上で、今年(17年)の0歳は来年(18年)の1歳、今年の1年生は来年の2年生と



いうように年を追うごとに人数をスライド(学年進行)させます。

3ページの表1～3の【詳細】の見方は、右斜め上に階段状に数字がスライドします。

- 17年の0～5歳の幼児数は、5月1日現在の住民基本台帳から抽出します。
- 人数をスライド(学年進行)させる際、転出入や私学への就学を加味した学年進行率や就学率を過去の実績に基づき計算します。
- 学級数は、現行40人学級のため、各学年40人までは1学級、41～80人は2学級、81～120人は3学級となります。

中学校の通学区域の問題 ～富岡中の統合校全域の受入は施設面から困難～

小学校の再編を考える際、進学する中学校の通学区域についても併せて考える必要があることから、上中里小と氷取沢小の統合を想定した場合の中学校の通学区域について推計数値を提供しました。

統合校に係る中学校の通学区域の主な案

統合校の通学区域全体を浜中の通学区域とする案

統合校の通学区域全体を富岡中の通学区域とする案

現行どおり現上中里小の通学区域は浜中、現氷取沢小の通学区域は富岡中とする案

統合校の通学区域全体を特別調整通学区域に設定し、いずれかの中学校を選択する案

中学校の通学区を考えると、受入先の中学校の施設状況(教室数)も考慮する必要があります。浜中・富岡中のデータをみると表4のとおりです。この表は、19年に小学校が統合したと仮定した場合、統合校の卒業生が中学校に入学するのは20年になるため、20年以降に1年生から順次、生徒数が増えてきます。これをみると、統合校の卒業生全員が同じ中学校に進学すると想定した場合、施設面で浜中(保有普通教室34)は問題はありませんが、保有普通教室20の富岡中は、21年に21学級と保有教室を超える見込みのため、受入れは難しい状況です。

また、現行どおり現上中里小は浜中、現氷取沢小は富岡中とした場合は、同じ小学校から別の中学校に進学することになりますが、横浜市の小学校の26%が2つの中学校に分かれて進学しており、6%の小学校が3つ以上の中学校に分かれて進学しています。

検討委員会では、これらのことを踏まえ、小学校の再編統合問題に併せて、中学校の通学区との関係も議論していきます。

主なご意見・ご質問 (回答は事務局)

表2「氷取沢小学校の状況」の中で、17年の5年が36人で18年の6年が35人となっているが、36人の誤りではないか。

在校生に関しては、学年進行率を加味して推計しており、過去の実績で転出等があると推計上の児童数も減ります。したがって、誤りではなく見込みとして1人減る計算になるということです。統合は早くて再来年(19年)とのことだが、教育委員会としては、何年ぐらい先に統合したらいいと思っているのか。

統合の時期について、教育委員会としては何年後ということは決めていません。議論をしていくなかで時間がかかる場合がありますが、在籍児童のこともありますので5年も10年も時間をかける話ではないと考えています。

今回は上中里小と氷取沢小の統合だが、統合した学校の児童数が今後減った場合、また相手を探して統合するのか。

上中里小は、杉田小から昭和48年に分離しましたが、通学距離・通学安全の面からその当時の交通量・道路事情と比較すると、単に児童数が減ったからといって、親校(分離元の杉田小)に戻すような統合は考えづらいと思います。

通学距離・通学時間に何キロ・何分までという基準はあるのか。

基本方針()の中で、望ましい通学距離を小学校は片道おおむね2キロ以内、中学校は片道おおむね3キロ以内という基準を定めています。ただし、通学路のアップダウンがきつい、途中に大きな国道や河川があるなど通学事情によってケースバイケースで考えていく話だと思います。

()横浜市立小・中学校の規模及び配置の適正化並びに通学区制度の見直しに関する基本方針

(平成15年12月教育委員会策定)

事務局の説明では児童数が減っているとのことだが、自分の町内をみると、最近では、新しく引越して来た若い世帯には小学生がいて増えているように思う。推計には、そのようなプラス要因は考慮されているのか。

昨年と今年の児童数を比較してみると、上中里小・氷取沢小とも増えている学年もあれば減っている学年もあります。また、5歳児以下も同様ですが、適正規模校になるような大幅な増加はあり得ないと考えます。

再編統合の組み合わせは、「上中里小・氷取沢小」で確認

5月に開催した保護者説明会の際に「氷取沢小と西富岡小の統合は考えられないのか」というご質問がありました。今後、再編統合の議論を進める前に、このことについて整理しておく必要があることから、検討委員会で意見の確認をしました。

教育委員会の考え方は、基本方針の中で小規模校同士を再編統合の対象としている、仮に氷取沢小と西富岡小が統合した場合、上中里小の小規模化問題は解消されない等の理由により、再編統合の対象校を「上中里小・氷取沢小」としていますが、検討委員会においても異議なく、これを確認しました。

このことにより、今後、この2校の統合に向けて、話し合いを進めていくことになりました。

表1 上中里小の状況(17年推計速報値)

	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
児童数	266	258	258	248	248	245	245
学級数	12(2)	11	11	10	10	9	9

17年は実数。()は個別支援学級を表します。

【詳細】(個別支援学級を除く。)

児童数	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
6年生	41	49	41	48	42	43	35
5年生	49	41	48	42	43	35	49
4年生	41	48	42	43	35	49	31
3年生	48	42	43	35	49	31	48
2年生	42	43	35	49	31	48	39
1年生	43	35	49	31	48	39	43
計	264	258	258	248	248	245	245
5歳	35	49	31	48	39	43	
4歳	49	31	48	39	43		
3歳	31	48	39	43			
2歳	48	39	43				
1歳	39	43					
0歳	43						

学級数	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
6年生	2	2	2	2	2	2	1
5年生	2	2	2	2	2	1	2
4年生	2	2	2	2	1	2	1
3年生	2	2	2	1	2	1	2
2年生	2	2	1	2	1	2	1
1年生	2	1	2	1	2	1	2
計	12	11	11	10	10	9	9

*保有教室数(普通:16/個別:2/特別:6)
その他の教室:3(はまっ子ふれあいスクール、パソコンルーム、PTA会議室)

表3 上中里小+氷取沢小の状況(17年推計速報値)

	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
児童数	432	406	385	375	359	344	336
学級数	13	13	12	12	12	12	12

17年の児童数は実数

【詳細】(個別支援学級を除く。)

児童数	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
6年生	75	84	62	69	69	69	53
5年生	85	62	69	69	69	53	63
4年生	62	69	69	69	53	63	52
3年生	69	69	69	53	63	52	53
2年生	69	69	53	63	52	53	54
1年生	69	53	63	52	53	54	61
計	429	406	385	375	359	344	336
5歳	54	64	54	54	57	64	
4歳	64	54	54	57	64		
3歳	54	54	57	64			
2歳	54	57	64				
1歳	57	64					
0歳	64						

学級数	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
6年生	2	3	2	2	2	2	2
5年生	3	2	2	2	2	2	2
4年生	2	2	2	2	2	2	2
3年生	2	2	2	2	2	2	2
2年生	2	2	2	2	2	2	2
1年生	2	2	2	2	2	2	2
計	13	13	12	12	12	12	12

表2 氷取沢小の状況(17年推計速報値)

	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
児童数	166	148	127	127	111	99	91
学級数	6(1)	6	6	6	6	6	6

17年は実数。()は個別支援学級を表します。

【詳細】(個別支援学級を除く。)

児童数	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
6年生	34	35	21	21	27	26	18
5年生	36	21	21	27	26	18	14
4年生	21	21	27	26	18	14	21
3年生	21	27	26	18	14	21	5
2年生	27	26	18	14	21	5	15
1年生	26	18	14	21	5	15	18
計	165	148	127	127	111	99	91
5歳	19	15	23	6	18	21	
4歳	15	23	6	18	21		
3歳	23	6	18	21			
2歳	6	18	21				
1歳	18	21					
0歳	21						

学級数	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年
6年生	1	1	1	1	1	1	1
5年生	1	1	1	1	1	1	1
4年生	1	1	1	1	1	1	1
3年生	1	1	1	1	1	1	1
2年生	1	1	1	1	1	1	1
1年生	1	1	1	1	1	1	1
計	6	6	6	6	6	6	6

*保有教室数(普通:13/個別:2/特別:6)
その他の教室:3(はまっ子ふれあいスクール、パソコンルーム、PTA会議室)

表4 中学校の状況(17年推計速報値)

浜中

生徒数	17年	18年	19年	20年		21年		22年		23年	
	現行	現行	現行	現行	+氷	現行	+氷	現行	+氷	現行	+氷
3年生	201	201	215	197	197	200	200	193	214	181	202
2年生	199	215	197	200	200	193	214	181	202	195	222
1年生	211	197	200	193	214	181	202	195	222	200	226
計	611	613	612	590	611	574	616	569	638	576	650

学級数	17年	18年	19年	20年		21年		22年		23年	
	現行	現行	現行	現行	+氷	現行	+氷	現行	+氷	現行	+氷
3年生	6	6	6	5	5	5	5	5	6	5	6
2年生	5	6	5	5	5	5	6	5	6	5	6
1年生	6	5	5	5	6	5	6	5	6	5	6
計	17	17	16	15	16	15	17	15	18	15	18

*保有教室数(普通:34/個別:2/特別:16)

「+氷」は、平成19年の統合を仮定した場合、20年の卒業生から適用で氷取沢小区域内の卒業生の全員が浜中に進学した場合の数値

富岡中

生徒数	17年	18年	19年	20年		21年		22年		23年	
	現行	現行	現行	現行	+上	現行	+上	現行	+上	現行	+上
3年生	218	214	228	234	234	249	249	233	274	231	279
2年生	207	227	234	249	249	233	274	231	279	247	289
1年生	219	234	249	233	274	231	279	247	289	263	306
計	644	675	711	715	757	712	802	711	842	741	874

学級数	17年	18年	19年	20年		21年		22年		23年	
	現行	現行	現行	現行	+上	現行	+上	現行	+上	現行	+上
3年生	6	6	6	6	6	7	7	6	7	6	7
2年生	6	6	6	7	7	6	7	6	7	7	8
1年生	6	6	7	6	7	6	7	7	8	7	8
計	18	18	19	19	20	19	21	19	22	20	23

*保有教室数(普通:20/個別:2/特別:12)

その他の教室:3(少人数指導2、相談室1)

「+上」は、平成19年の統合を仮定した場合、20年の卒業生から適用で現上中里小区域内の卒業生の全員が富岡中に進学した場合の数値

小規模校や学校づくりについて校長からのひとこと

氷取沢小校長 ~ 適正規模は子どもたちにプラス ~

小規模校は、メリットもあるが、小規模がゆえに人数による物理的制約など努力をしても追いつくことができないことがある。また、様々な個性と出会って、切磋琢磨して自分を磨き、たくましく成長させていく部分では若干弱い気がする。適正規模校で、学級が複数あり学級編制を毎年行うことができることは子どもたちにとってもプラスだと思う。また、「学年」と「学級」の2つの組織集団の体験ができるというのは、この時期の子どもたちにとって非常に大事な刺激だと思う。

上中里小校長 ~ 統合は大きな夢を持って ~

再編統合は、両校を廃止して、新しい学校を創ることになる。したがって、今回の統合が決まれば、上中里小の最後の校長になるかもしれないが、そこから新しい学校を創っていくという大きな夢を持つことが大事だと思う。小学校としては、子どもたちを伸び伸びと、しっかりした力をつけて中学校に送り出してあげたい。そう考えると適正規模というのはとても重要だと思う。人間関係が硬直化したときに、単学級の学校では、その学校で改善できない場合、転校せざるを得ないケースがあるが、2学級あれば随分改善されることがある。また、統合した場合、子どもたちをどのように支援していくかというのが、大人として、保護者・地域・学校が一緒になって考えていかなければならないと思う。

富岡中校長 ~ 魅力ある学校づくりを ~

中学校の時期は、多様な生徒が集まり、切磋琢磨と多様な教育環境で育てるというのが最も重要だと思う。それは教科の勉強だけではなく放課後や特別活動も含めて、様々な環境を子どもたちに与えるということだと思う。また、今はトップクラスの県立高校でさえ、中学校に来て学校の特色、カリキュラムや魅力をPRしている。義務教育の中学校もそれをかなり意識して学校運営をしていかないと淘汰されてしまう運命にあると思う。中学校の校長として富岡中に来たいという魅力のある学校にする環境づくりをしていきたいと思う。

浜中校長 ~ 自分が主役という意識で ~

子どもたちは多勢の人々の中で育っていくことが望ましいと思う。一時期、あまり幼い頃から競争させない方がよいという風潮もあったが、あくまでも一人ひとりが自立心を持ち、それぞれが「自分が主役」という意識で切磋琢磨し、それを学校・家庭・地域で見守り、支援していくことが大切である。少人数は行き届いた指導ができる面もあるが、人数の適正規模は、学校が教育活動を行う上で必要なことである。浜中は歴史と伝統がある学校であり、常に子どもたちを愛し、大切に育てたいと思っている。

次回検討委員会の日程

平成17年9月30日（金）午後7時から氷取沢小学校で開催予定

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会の経過や横浜市の基本方針等は
ホームページでもご覧いただけます。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会は、皆様からのご意見をいただきます。
EメールかFAXで事務局にお送りください。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会事務局

横浜市教育委員会事務局学校計画課 Eメール：ky-isogo@city.yokohama.jp

FAX：045-651-1417 電話：045-671-3252